from 北九州

『あーさんと動物の話』 撮影/藤本 彦

ツアー出発前夜に考えたこと

人間、北村功治が新たな土地で新たな観客と作品とを繋げるのがとても心地よい

北村功治

飛ぶ劇場制作

ツアー出発前の慌しさの中で

只今24時過ぎ、明日からツアーでそれなりに忙しく、また大事なタイミングなのに原稿を一文字も書いておりませんでした。

全国に分布する小劇場の制作者さんが私並に用意不周到かどうかはここでは置いときますが、ツアー前の制作さんはそれなり忙しいということです（信じてください）。今、この原稿を書きながら、やれ弁当がどうの、やれ向こうの担当者さんと上手くやれるか？とかそんなことをマジで考えております。

一昨日、旅手帖を劇団員に渡しました。4週間で4ヶ所を巡演するので4公演地分の旅手帖です。ここで白状しちゃいますが、私は元来、細やかな気配り、気遣いがウルトラ苦手です。なので、「公演地とホテルと移動手段の予約はするので、あとは勝手にせい!」的な事ができるならといつも思っています。が、が! やはり20人近くが移動するツアーです。20人の内の何某が本当に勝手にしたら困るので私の精神衛生のために旅手帖を作りました。

ああ、こんなネガティブ原稿書いていたら制作者に憧れるであろう全国の制作者予備軍が引いてしまいます。どうしよう。そうだ! いい事書きます。制作者、制作者ってこ〜んなに素晴らしいよっ! ってのね。ひょっとしたら、このパンフレットが後世に残る、小劇場史の1ページのなにやらとして、どこぞに保管されるかも知れません。その時のためにも、ここはガツンと私の演劇観や制作とは、はたまた「人間、北村功治」とは何ぞやと、大胆に、そして赤裸々に書いていこうと思います。

……ちょっと調子に乗っていました。私の小さな風呂敷の範囲で気持ちに正直な書きますので許してください。

出会いが出会いを呼んでいく

只今24時25分。上記の駄文に25分も時間を費やしていましたか。反省。それはそうと、明日はみんな時間通りに小倉駅に来てくれるのか？ 来なかったら、置いて行くしかあるめぇ。幸い、チケットはフリー……。ああ、また私のネガティブブレインがぁ!

創立20周年記念写真

稽古風景

飛ぶ劇場vol.27創立20周年記念公演
『あーさんと動物の話』

2007
〈北九州公演〉
10.12［金］—14［日］ 北九州芸術劇場小劇場
〈札幌公演〉
11.3［祝］—4［日］ 生活支援型文化施設コンカリーニョ／札幌劇場祭 Theater Go Round 2007
〈福岡公演〉
11.10［土］—11［日］ 西鉄ホール／西鉄ムーブ100

2008
〈高松公演〉
1.26［土］ サンポートホール高松第1小ホール／第2回サンポート演劇フリーダム
〈東京公演〉
1.31［木］—2.3［日］ こまばアゴラ劇場／冬のサミット2007
〈広島公演〉
2.9［土］—10［日］ アステールプラザ多目的スタジオ／アステールプラザ芸術劇場シリーズ
〈宮崎公演〉
2.16［土］—17［日］ 宮崎県立劇場イベントホール

いかん、いかん、制作の素晴らしさを書かないことには本末転倒になりますね。そんな訳で制作の良さはといいますと、一言で言えば、「コントロールできる」って事だと思います。制作の仕事がいろいろあるように、制作者のタイプもいろんなタイプがあると思いますが、私は企画立案と資金管理が主な仕事です。来年の公演は、どんな作品を、いつ、どこで、やろうか？ ここと、ここと、ここで公演するとこのくらいお金が掛かりそうだ。じゃあ、ここからお金を……って感じで劇団、作品と関わっています。私が考え、行動したことが肉付けされ作品になり公演を行なう。なんて素晴らしいことではありませんか! ビバ! 制作!

私が所属する劇団「飛ぶ劇場」は、積極的にツアーを行なっています。そういったツアーを切り盛りして、新たな土地で新たな観客と作品とを繋げるのがとても心地よいのです。作家でも演出家でも演者でもない、決して舞台の上には立たない制作者ですが立派に作品創りを担っていると胸を張っていえる仕事だと思っています。私は、そんな制作という仕事が好きなのです。

今年度の作品『あーさんと動物の話』は劇団創立20周年記念公演として7ヶ所のツアーを巡演中です。3ヶ所を終え、沢山の出会いがありました。その中の出会いには、このPmP2006があったからこその出会いもありました。正に、「出会いが、出会いを呼ぶ」のです。おそらく、このツアーを基点として始まる新たな出会いもあることだろうと思っています。こんなに楽しく、素晴らしいことを私たちだけでなく、これを今読んでいる方にも実践して欲しいのです。さあ、皆さんもツアーに!

ツアーに出ると大変です。役者が仕込み中に怪我をして病院行くのに保険証を忘れたりします。途中でお金が全くなくなるヤツもいます。コインランドリーで下着を盗まれる女優もいます。こんな楽しいこと、大人になってなかなか体験できないじゃあありませんか! さあ、皆さんもツアーに! 耳障りのいい事ばかり書きましたが（本当か？）、制作を行う上で悩みも沢山あります。

今、一番の悩みは、「身近に同じ目線の制作者がいない」ということです。自分では良かれと思い、自信を持って行なったことが、ふとした時に「これでいいのか？」と思う時が多々あります。そんな時に腹を割って悩みを打ち明け、愚痴をこぼせる仲間がいればどれほど楽かと。また、今、自分が行なっていること、考えていることがどの程度のことなのかを確認する場がないのは正直、不安です。自分が走っているところは、先頭集団なのか、第2集団の後ろなのか、はたまた周回遅れなのか……。今は自分自身をひたすら信じ、奮い立たせるしかないのかもしれません（う〜ん、でもちょっとしんどいかも）。

意義を感じたらすぐ旅支度を

ツアーを考えている制作者の方へ、ツアーの良さやツアーを勧める事ばかり書いてきましたが、逆のことも少し。ツアーに出ることはそれなりのリスクも発生します。拘束期間の長さから、いつものメンバーでの公演が出来ないかもしれません。また、会場が代わると、いつも簡単に出来ていたことが出来ないかもしれません。音響や照明のプラン替えも発生するかも知れません。また、集客も苦労することでしょう。そのため、金銭的なリスクは常についてまわると思います。そのような負の要素も理解した上で、今、「自分たちのカンパニーが外に出て行く意義」を感じたのであれば、今すぐに旅支度を始めてください。きっと良い旅になるはずです。失敗も糧にできるほどの覚悟があれば、きっと、そのカンパニーは素敵なカンパニーです。

10時間後は高松だ。もう寝るとしよう。

飛ぶ劇場

1987年に北九州の大学演劇OB等により結成。95年に現代表の泊篤志が正式に劇団代表を引継ぎ、北九州市を本拠地に積極的にツアーを行い東京はもとより全国へ出向いている。07年度は創立20周年記念公演として、『あーさんと動物の話』で全国7ヶ所のツアーを敢行した。